

大学の世界展開力強化事業 取組実績 慶應義塾大学

【構想の名称】(タイプB-I)

グローバルイノベーションデザイン・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムではイノベーションデザイン力、プロジェクト実行力、国際的コミュニケーション力を持ち、クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成を目標としています。

【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・日・英の国際連携教育プログラムです。3大文化経済圏におけるリーディングスクールに半期ごと滞在することで、トランス・ナショナルな教育環境を実現します。修了者には在籍校の修士学位に加え、3拠点合同のサーティフィケートが発行されイノベーションデザイン分野での高い能力を保証することを計画しています。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ **GIDプログラム事業の推進**: H24から開始するメインプログラムの学生募集に先駆け、2月から3月にかけて参加大学の教職員間の相互派遣を行い、プログラムの体制強化及び教員間の交流を実施しました。米国から1回2名の教職員受け入れ、英国から計2回9名の教職員受け入れ、また本学から各提携校へ各2回、3名ずつの派遣を実施し、本プログラム実施のための環境整備やカリキュラム、ビザや学生寮等の受入体制についての調整を行いました。

○ **教職員の国際化のための人材育成**: 教職員の国際化のための人材育成事業として、プログラムに関与する3名の教員を米国Stanford Universityへ派遣、さらに周辺のイノベーション分野において注目度の高い企業教社の訪問を実施し、現地のデザインビジネスに関する最新事情の調査、デザイン教育および育成する人材像に関するニーズの調査、および今後のプログラムの持続的な運営のためのGIDコンソーシアム設立への提携についての打診を行いました。さらに、提携先の米国・英国へ教職員の派遣を行い、各大学の提供する教育プログラムの視察を行いました。訪問によって得られた知見は、本学で開催された派遣成果報告会において発表・共有しました。

○ **教職員の雇用**: 英語力と国際的経験を重視して、バイリンガルな教員および職員の採用を行い、3名のデザインエンジニアリング分野に強い本学教員を配置、さらに教員1名、職員1名を雇用しました。さらに国際化強化として教員1名の国外公募を実施しました。



〈英国教職員受け入れ〉



〈コンソーシアム設立に向けた米国の企業訪問〉

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



〈各提携校への日本人学生の派遣〉



〈各提携校からの留学生の受入れ〉



○ **プレ・プログラムの実施**: GIDメインプログラムのトライアルとして相互派遣のプレ・プログラムを実施しました。本学からは在籍学生から募集・選考を行い、米国・英国の各提携校へ短期で派遣、現地の教育プログラムへ参加しました。派遣学生には帰国後にプログラムの質の向上に関するヒアリングを行い、さらに現地の設備や周辺の安全状況、住環境などについての実体験に基づくレポートの作成を義務づけました。派遣中の活動報告は報告書および本学にて開催された報告会で共有しました。また各提携校からもそれぞれ短期で学生を受け入れ、本学の特別プログラムを提供しました。受入学生には帰国後に本学の教育プログラムおよび設備や周辺環境に関する事後アンケートを実施しました。

○ **メインプログラムの準備**: H24より開始する修士プログラムの準備として、カリキュラム設計や入試要項などの詳細調整を行いました。

○ **ショートプログラムの準備**: H24夏期に実施される学部生対象の短期派遣プログラムの準備として、米国における受け入れ態勢の準備、およびカリキュラムの設計を行いました。H24、5月より募集を開始する予定です。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生の派遣**: 本学の在籍学生から米国へ2名(1週間)、英国へ2名(3週間)を派遣しました。

○ **外国人留学生の受入れ**: 米英の各提携校からそれぞれ2名の学生を受け入れました。

注)H23は実績、H24以降は計画。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	4	20	20	20	20
学生の受入	4	5	25	25	25

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **学生の受入・派遣環境の整備**: 施設・設備の強化としてGID学生専用の教室「GIDプロジェクトルーム」と、製作活動を行う部屋「GIDスタジオ」を整備しました。また3大学が常時接続して学生が相互コンタクトを取る環境として、各拠点にネットワークを通じたテレビ会議システムを設置しました。本環境はプレ・プログラムでの学生受入時に活用し、さらなる改善についてのフィードバックを得ました。



〈左:GIDプロジェクトルーム、右:GIDスタジオ〉

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ **広報体制の強化**: 本プログラムではまず成果普及の前提となる国内外での認知向上を目標とし、そのため国内外への情報発信力を強化するための専門のマーケティングアドバイザーと提携しました。本プログラムの育成する人材像と本プログラムの生み出す成果や社会的インパクトを明確にした上で、ロゴマークの設計、英語圏での効果的なブランディングのためのパンフレットとウェブサイトのデザイン、および今後の国内外への告知活動に関するマスタープランの作成を行いました。